

## 第38回生物医学図書館員研究会参加報告

西 さやか\*

東京医科大学図書館八王子医療センター分館

### I. はじめに

第38回生物医学図書館員研究会（以下、研究会）は「電子情報の管理と利用上のルールとマナー」をテーマに開催された。

昨今のデータベースや電子ジャーナルといった電子情報の拡大は研究者のみならず、図書館員にも大きな恩恵をもたらした。しかし、その一方で氾濫する情報との向き合い方や、利用者への情報の提示の仕方に戸惑いを感じる場面も少なからず存在する。

今回の研究会はそのような時流のなか、様々な電子情報を提供する側と、それらの電子情報を受け取る側が一堂に会し意見交換を行うという貴重な場となった。

### II. プログラム

開催日時：2012年12月15日（土）14：00 - 17：30

場 所：順天堂大学6号館3階教室

テ ー マ：電子情報の管理と利用上のルールとマナー

参 加 者：45名

内 容：(敬称略)

#### 1. 文献情報管理ツールRefWorks, Zotero, Mendeley等の機能比較とその特徴

司会：谷澤滋生（東邦大学習志野メディアセンター）

講師：紀平宏子（国際基督教大学図書館）

#### 2. 文献データベースの有効活用とマナー（大量ダウンロードによる弊害）

座 長：児玉 潤（東邦大学医学メディアセンター）

報告1：新井克久（シュプリンガー・ジャパン株式会社）

報告2：浦口周二（エルゼビア・ジャパン株式会社）

報告3：吉田信子（株式会社メテオ）

報告4：松田真美（特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会）

#### 3. ビブリオバトル

企 画：大谷裕（東邦大学医学メディアセンター）

テ ー マ：情報

以下に当日の発表内容を紹介する。

### III. 文献情報管理ツールRefWorks, Zotero, Mendeley等の機能比較とその特徴

各種データベースや様々なコミュニケーションツールの発達は研究者にとって情報のありかたを広げる一方で、それらの情報に翻弄されないよう、整理する必要が出てきた。

本発表では「RefWorks」、「Zotero」、「Mendeley」の3つの文献情報管理ツールについての比較がなされた。文献取り込みや参考文献挿入など、実際の手順を見ながら解説され、それぞれの長所、短所を体感することができた。

講師の紀平氏の所属する国際基督教大学図書館ではこれら3つの文献管理ソフトについて詳しい機能比較表をホームページ上に掲載しているとのことなので、参考にされたい<sup>1)</sup>。



\*Sayaka NISHI：ヘルスサイエンス情報専門員（基礎）  
〒193-0998 東京都八王子市館町1163. Tel.042-665-5611（代）  
Fax.042-666-0551 west-38@tokyo-med.ac.jp

（2013年2月27日 受理）

RefWorksはダイレクトエクスポートやPDFの保存といった機能が一通り揃い、一番オーソドックスな印象を受けた。また、アウトプットスタイルの種類数が多いのも魅力的である。一方、有償（国際基督教大学の場合、図書館で契約）であるという点において契約までのハードルが少し高いかもしれない（図1）。

Zoteroの最大の特徴はPDF保存の容易さであろう。PDFアイコンをZotero側にドラッグするだけで取り込みができる、という視覚的、感覚的に易しい作りになっている。また、Google ScholarやAmazon、はてはYouTubeに至るまで様々な形で提供された文献情報の取り込みができ、非常にユニークな印象を受けた。しかし、無料版のWebアカウント容量が300MBと少なめなのが弱点である（図2）。

Mendeleyの特徴はビューワーがMendeley独自のものであり、PDFの編集ができるという点である。また、研究者同士のSNSの役割も果たしており、研究者同士のネットワーク構築に一石を投じた感がある。しかし、最大の弱点は英語版しかないという点であろう。なお、ユーザーベースの対策ではあるが、日本語の書誌情報をうまく取り込めないという問題を解決する、「日本語論文 to Mendeley」というツールも登場しているようであり<sup>2)</sup>、

言語による障壁は今後さらに低くなっていくのではないだろうか（図3）。

ひとくちに情報管理ソフトといってもそれぞれの特徴は大きく異なる。個々の研究スタイルによってこれらのツールをうまく使い分けることがよりよい研究の一翼を担うように感じられた。

#### IV. 文献データベースの有効活用とマナー

前半、各企業より1名ずつ、計4人が登壇し、どのようにアクセスやダウンロードを管理しているか、また何をもって不正行為とみなしているかの概要をお話された。後半では前半の内容を踏まえて質疑応答の時間に充てられ、会場から活発な意見交換がなされた。

##### 1. シュプリンガー・ジャパン株式会社

近年の傾向としてWebの世界の高速化が見られ、またモバイルアクセスの増加が顕著である。不正ダウンロードとみなされる範囲の公表はできないが、常に監視は行っている。諸外国と比較してみると日本は図書館、利用者ともに比較的利用マナーが良いといえる。図書館側としてもさらなる注意喚起をしていきたい。

##### 2. エルゼビア・ジャパン株式会社

SciVerse ScienceDirectのダウンロード数は年間6億件にも達し、これは1秒に19件ダウンロードされている計算になる。不正利用はほとんどないが、不正とみなされたIPアドレスだけを止めることは過去にあった。マナーとして、読むかどうか分からない論文を事前に大量にダウンロードすることは避け、「必要なときに」、「必要な件数」をダウンロードしてほしい。なお、以前に比べると警告を出す件数は減少している。

これはいつ電子ジャーナルが使えなくなるかわからな

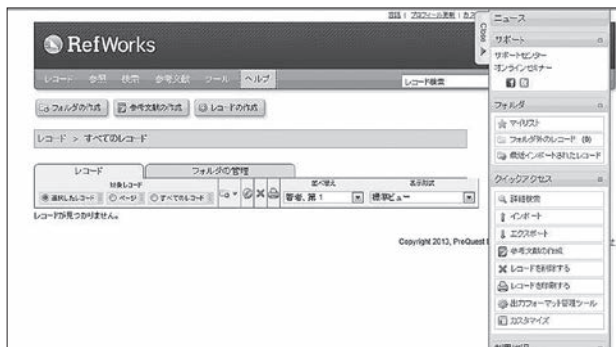


図1. RefWorks

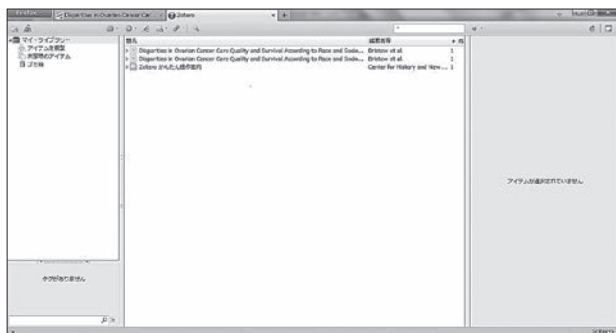


図2. Zotero

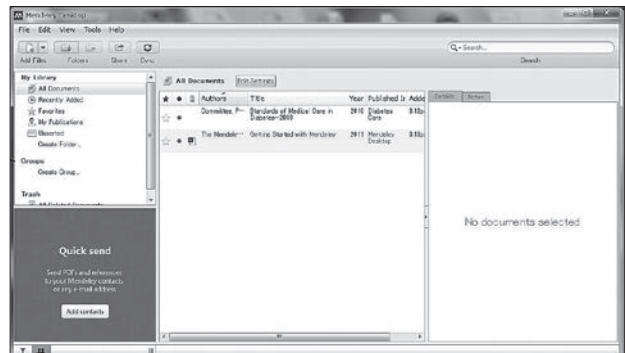


図3. Mendeley

いのでそうなる前にまとめてダウンロードをしなければ、という不安が減少した結果ではないかと考えられる。

### 3. 株式会社メテオ

メディカルオンライン法人会員規約第9条（禁止行為）において、不正とみなされる範囲の基準を記載しているので参照されたい<sup>3)</sup>。メディカルオンラインの中心は和雑誌であるが、特集が組まれることが多いので1つの号をまとめて、閲覧する利用も少なくない。ただし、不正の意図はなくとも複数回クリックすることでそれもカウントされてしまう。図書館側としても利用者への注意が必要である。一定の時間に一定数の論文をダウンロードすると不正とみなされ、ダウンロードを行ったパソコンに警告画面が表示されるとともに、管理者へメールで報告される。過去には5分間で3,000件ものダウンロード事例もある。

### 4. 特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会

文献の書誌情報を提示するのみで、本文を提供しているわけではない、という医中誌の性格上、上記3社とはなにもって不正アクセスとみなすかが異なるが、常時アクセスの監視はしている。明らかに異常なアクセスがあった時はIPアドレスを調べることもある。過去に原因不明の異常アクセスにより管理者に連絡を取ったこともあるが、サービス停止に至ったことはない。

不正ダウンロードに関して、各社若干の違いはあるものの、おおむね「明らかに人間の手ではなく、機械的にダウンロードされたもの」、すなわち「システムティックダウンロード」をもって不正とみなす傾向が強いようである。大量ダウンロードにおいて一番問題とされるのは、ダウンロードしたものをどのように活用するのかという点であろう。たとえば、いくら大量にダウンロードされたものであっても、それが計量書誌学の研究に必要なものであればマナー違反とはみなされないのではないかと、という意見が会場から出された。提供側としても、そのように活用法がはっきりしている場合は事前にご相談いただきたいとのことである。一方で読む予定のない論文を「とりあえず」手元に置いておくためにシステムティックに大量ダウンロードを行うのであれば悪意があるとみなされても仕方がないように感じる。図書館としてはこの先、適正に使うマナーについて考え、利用者にも伝えていく必要がある。

今回図書館と提供者側が活発な意見交換を行い、それぞれの立場が見えてきたことは大いに意義があることで

あった。シュプリンガーの新井氏の発表の中にもあったが、Webの世界はさらに高速化し、変容していくことだろう。その変容の中で各々が持つ「マナー」の基準も変容していくことは想像に難くない。今後を見据えて図書館と出版社、さらには利用者がより一層の意見交換を行い、ともに考えていかななくてはならない問題であると実感した。

## V. ビブリオバトル

ビブリオバトルのルールは以下の通りである。

- ①登壇者は5分でお勧めしたい本を紹介する。
- ②それぞれの発表の後に会場の全員で2,3分程度のディスカッションを行う。
- ③すべての発表終了後、会場全員が「読みたくなった本」に一人一票投票する。最多票を集めた本がチャンプ本に選ばれる。

今回のビブリオバトルのテーマは「情報」であり、テーマに即した本を持参した5人が登壇した。

### 1. 東京歯科大学図書館 阿部潤也氏

・大向一輝, 池谷瑠絵著. ウェブらしさを考える本: つながり社会のゆくえ. 丸善出版. 2012,xvi,190p.

著者はCiNiiの開発に関わった人物であり、「Webらしさとは?」という問いに5つの条件を提示している。なお、この本はWebで全文公開されている。

### 2. 東京医科大学図書館 高畑亜紗美氏

・ジョン・M・マグレガー著; 小出由紀子訳. ヘンリー・ダーガー非現実の王国で. 作品社. 2000,141p.

ヘンリー・ダーガーは一人で絵や物語を描き続けたが、その死後、彼が住んでいたアパートの大家がたまたま大量の彼の作品を発見したことで世に出ることになった。世界一長編の本といわれる。

### 3. 株式会社サンメディア 長谷川智史氏

・リチャード・ワイズマン著; 木村博江訳. その科学が成功を決める. 文藝春秋. 2010,300p.

世間でそういうものだと認識されているものに関して、実際に実験してその根拠を示す。仕事、私生活のヒントになりうる一冊。

### 4. 防衛医科大学図書館 関根志保氏

・鄭立著. ZigBee開発ハンドブック. リックテレコム. 2006, vii,226p.

ZigBeeとは、近距離無線通信規格の一つでミツバチが飛びまわるさまにちなんで名づけられた。例えば、災害現場で患者に取り付けることで所在把握につなげることができる。

5. 特定非営利活動法人医学中央雑誌刊行会 松田真美氏  
・中井久夫著. 日本の医者. 日本評論社. 2010,vii,309p.

1963年、日本の医者意識や医局制度を改革しようという医師により匿名で出版された。実に50年の時を経て実名での復刊と相成った。

5人の発表終了後、参加者全員による投票が行われ、チャンプ本は17票を獲得した「日本の医者」に決定した。

私自身、学生の頃に比べると読書頻度が落ちているし、特定の分野に偏っている傾向が否めない。今回の「ビブリオバトル」はまた新しい読書の世界を垣間見たようで刺激的な経験であった。また、大がかりな道具を使わない容易さから、普段からプレゼンテーションの練習としても使えるように感じた。

## VI. おわりに

当日は冷たい雨の降りしきる生憎の天気ではあったが、参加者のみなさんの活発な意見交換は熱気を感じさせるものがあった。

最後に、貴重な場を提供してくださったスタッフのみなさま、貴重なお話を聴かせてくださった登壇者のみなさま、そして会場のすべての参加者のみなさまに御礼申し上げます。本稿の結びといたします。

### 参考文献

- 1) 国際基督教大学図書館. 文献情報管理ツール [internet]. [http://www-lib.icu.ac.jp/Citation\\_manager/index.htm](http://www-lib.icu.ac.jp/Citation_manager/index.htm) [accessed 2013-02-09]
- 2) 坂東啓太. 文献管理サービスMendeleyの紹介. 医学図書館. 2012;59(3):243-9.
- 3) 株式会社メテオ. Medical\* Online会員規約 [internet]. <http://www.medicalonline.jp/img/houjinkiyaku.pdf> [accessed 2013-02-09]